

新規恒久施設に係る後利用の方向性 等

大井ホッケー競技場に係る後利用の方向性（平成27年 1 1 月）

都内有数の多目的人工芝競技場として、ホッケーその他の競技の拠点とする

大会後の利用方法

○ ホッケーの振興拠点

- 国際基準を満たす数少ないホッケー競技場であり、ホッケーの国際大会をはじめとする主要大会の会場として活用する。
- 都内でも数少ない公共のホッケー競技場の1つとして、企業や学校の練習場として活用するほか、成人やジュニアの主要大会の場として活用するなどしてホッケーの振興の拠点とする。

○ 各種競技の普及・強化の拠点

- サッカー、フットサル、ラクロスなど様々なスポーツについて、幅広い利用が可能な多目的人工芝競技場として活用する。
- 様々なスポーツを行うとともに、各種競技のスクールや体験イベントなどの会場として、各種競技の普及・強化の拠点とする。

○ スポーツ施設と公園機能が融合した「総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点」

- ホッケー競技場だけでなく、大井ふ頭中央海浜公園内のスポーツ施設（テニスコート、陸上競技場、野球場など）や周辺の緑地等を含め、一体的な活用を検討することにより、公園全体としての魅力を高め、都民に親しまれ、賑わいのある「総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点」としていく。

ホッケー競技場(イメージ)

※2012年ロンドン大会時の写真



様々なスポーツ利用(イメージ)



カヌー・スラローム会場

施設の位置づけ

- カヌーのほか、ラフティングなど様々な水上スポーツが楽しめるレジャー・レクリエーション施設としていく
- 葛西臨海公園など周辺施設と一体的な活用を図り、新たなにぎわいの拠点としていく

I 運営の基本方針及び主な事業内容

1 国内初の人工スラロームコースによる様々な水上スポーツの機会を提供

- 国際大会、主要な国内大会の会場、国内選手の強化・育成の拠点（スラローム、ワイルドウォーター、フリースタイル、ポロ等）
- カヌー教室 等



2 施設特性を活かした様々な活用の推進

- ラフティング体験などの水上レクリエーション
- 水難救助訓練、企業研修 等



3 周辺施設、地元区と一体となつたにぎわいの創出

- 葛西臨海公園、葛西海浜公園等との連携
- 周辺施設と連携したイベント等の開催



III 年間利用イメージ

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
スラロームコース	競技利用	国際大会・国内大会・練習利用 等											
	レクリエーション利用	ラフティング体験 等											
	その他利用							水難救助訓練 等					
フィニッシュエリア	競技利用	カヌーポロ 等											
	レクリエーション利用	カヌー教室 等											
周辺施設	アウトドア教室	植物ガイド・野鳥観察 等											

濃色：主な利用を想定する時期

II 周辺地域との連携



- 葛西臨海公園、葛西海浜公園は、年間300万人以上が訪れるレジャースポット
- あらゆる都民が1日中楽しめる施設とするため、カヌー・スラローム会場、葛西臨海公園、葛西海浜公園の一体的な活用を検討

(例) 全体コンセプトやゾーニング、相乗効果を生み出す事業、既存資源の活用、一体的な管理運営方法、地元区との連携

IV 年間来場者目標

約10万人
競技利用、
レクリエーション利用 等

○ **後利用の方向性**

アーチェリーを中心に、都民・公園利用者に対し、様々なスポーツの機会を提供する施設としていく。

○ **大会後の利用方法**

- ・主要な競技大会の会場
- ・アーチェリーの普及・強化の拠点として活用
- ・アーチェリーを中心としながら、多様な活用